

<代表値>

男性：0.10 時間/日

女性：0.12 時間/日

<代表値のもととなる資料>

風呂文化研究会 都市生活研究所（1999）では 1999 年 3 月にアンケートによる入浴の実態調査を行っている。調査対象者は、年齢、家族構成、性別による偏りが少なくなるように作為抽出された 2,100 名で、そのうち 1,456 名から回答を得ている。調査対象者は、TULIP モニターと呼ばれる集団から選ばれ、このモニターの多くは関東エリア（1 都 3 県）に在住している。主に、夏と冬における入浴時間、入浴スタイル（シャワーのみか等）、入浴方法などが男女・季節別に報告されている。入浴は、「浴槽入浴」と「シャワー入浴」に分けられ、それぞれの入浴に関する所要時間が記されている。入浴所要時間は、浴室滞在時間、シャワーを出している時間、蛇口の水を出している時間、浴槽に浸る時間（浴槽入浴のみ）に分類集計され、季節別・男女別の平均値（行為者のみ）が示されている。また、入浴に関する意識調査も行われている。夏のデータに関しては、回答者の思い出しによるものである。

代表値である男性のシャワー使用時間の 0.10 時間/日という値は、上記報告書の浴槽入浴の「シャワーを出している時間」という項目の夏（6 分）と冬（6 分）の平均値である。女性の場合も同じく、夏（7 分）と冬（7 分）の平均であり、シャワー使用時間の代表値は 0.12 時間/日という値になる。以下の表は、季節・男女別の平均シャワー使用時間をまとめたものである。

季節別平均シャワー使用時間(分)

		夏	冬
浴槽入浴	男	6	6
	女	7	7
	全体	6	7
シャワー入浴	男	8	9
	女	8	10
	全体	8	10

出典：風呂文化研究会 都市生活研究所（1999）

代表値には、「浴槽入浴」の平均シャワー使用時間が用いられているが、「シャワー入浴」における平均シャワー使用時間も報告されている。男女それぞれのシャワー使用時間の平均値は、夏の場合、両者とも 8 分である。冬は男女それぞれ夏より少し時間が長くなり、男性では 9 分、女性では 10 分となっている。男女全体では、夏 8 分、冬 10 分である。浴槽入浴、シャワー入浴ともに、男女別平均シャワー使用時間に関しては、顕著な男女差はみられない。浴槽入浴とシャワー入浴を比較すると夏・冬ともに、シャワー入浴の平均シャワー使用時間が長いことがわかる。

<追加的情報>

風呂文化研究会（2000）では、1999 年 3 月の調査（風呂文化研究会 都市生活研究所（1999））に続き、1999 年 8 月に夏の入浴実態に関する調査を行っている。対象者は、都市生活研究所のアンケートモニター

シャワー使用時間

更新日：2007.3.30

「TULIP」から、年齢、性別、家族構成に偏りが少なくなるように作為抽出された1,438名である。その調査によると、「浴槽入浴」の夏の平均シャワー使用時間は、全体で6分（男性：5分、女性：6分）となっている。これは風呂文化研究会 都市生活研究所（1999）と同じような値である。また、「シャワー入浴」についても同じことが言え、夏の平均シャワー時間は全体で8分（男性：7分、女性：8分）である。この調査では、性・年齢別の夏の平均シャワー使用時間も報告されている。10代においては、男女間で大きな違いが見られ、男性5分、女性10分と女性のシャワー使用時間は男性のそれと比較するとほぼ2倍である。20～40代においても、女性のシャワー使用時間が長いという傾向が見られる。一方、50代と60代では、男女間の差は見られない。また、男女全体の平均値を年代別に比較すると、若い世代のシャワー使用時間が長い。

夏の年齢別平均シャワー使用時間（分）

		10代	20代	30代	40代	50代	60代
浴槽入浴	男	5.4	5.5	5.1	4.8	5.2	4.6
	女	10.0	8.8	7.8	6.3	5.2	4.6
	全体	7.4	7.1	6.8	5.9	5.3	4.6
シャワー入浴	男	8.8	8.8	8.1	6.7	6.5	6.6
	女	12.8	9.9	8.8	7.9	7.6	7.3
	全体	10.8	9.4	8.5	7.5	7.2	7.0

出典：風呂文化研究会（2000）

注：数値はグラフからの読み取りによる。

<数値の代表性>

◇ 代表値の信頼性：中

1都3県を中心とした関東エリア在住者のみで調査されたものである。

◇ 代表性に関する情報

代表値のもととなる資料

対象者は、年齢、家族構成、性別による偏りが少なくなるように作為抽出された関東エリア（1都3県の居住者の割合が多い）在住の1,456人である。また、この調査は3月に行われたため、夏のデータについては、回答者の思い出しに基づいている。

追加的情報

サンプル数は1,438人である。調査対象者は、関東エリア（1都3県）の在住者であり、年齢、家族構成、性別による偏りが少なくなるように作為的に抽出されている。

◇ 入手できた資料の数

上記の2調査のみであった。

<引用文献>

代表値

風呂文化研究会 都市生活研究所（1999）、入浴の実態と意識に関する調査報告書。

追加的情報

風呂文化研究会（2000），現代人の入浴事情 2000－夏の入浴実態調査.

<更新履歴>

2007.3.30 / 文章の体裁を整えました

米国 EPA 暴露係数ハンドブックでの推奨値

米国 EPA の暴露係数ハンドブックでの、行為者平均シャワー時間の推奨値（専門家の判断に基づく）は、10 分/回となっている。この推奨値のもととなった資料は、Tsang and Klepeis(1996) : National Human Activity Pattern Survey (NHAPS)である。この調査は、米国 EPA が 1992 年から 1994 年にかけて、米国を代表するように選ばれた 9,386 人を対象に行ったものである。この調査では、1 日の行動場所、活動、また暴露に関連する出来事（個人暴露、世帯の特徴、医療背景）が調べられている。調査対象者 9,386 人のうち調査対象日に少なくとも 1 回シャワーをした者は 3,594 人であり、行為者率は約 40%である。